

月刊 ビジヨナリー

2008年 1 月

monthly VISIONARY

CONTENTS

- 私学研究 ● 鷗友学園 「英語による英語授業」から見えること 2
- 高校入試 ● Vもぎ集計にみる都内私立高校の志望傾向 7
- 高校入試 ● 08年度埼玉県私立高校入試を考える 13
- 大学入試 ● 09年度国公立大入試主な変更点 16

今月の夕回一ズアツプ

「くにはどこ？」

出版社時代によく仕事を依頼していた編集プロダクションを久しぶりに訪ねた。社長と昔話をしているうちに昼になり、社員も一緒に近くの食堂へ向かった。テーブルに着き、名刺交換。新入社員が変わった名前だったので、「くにはどこ？」と尋ねた。途端に、目を大きく見開いたままこちらを見つめる。声が出てこない。社長が横から口を出した。「出身地だよ」。この社員は、自分が日本人に見られなかったと思い、ショックを受けたのだった。

だいぶ前になるが、塾説の後で授業見学していたときにこんなことがあった。中高一貫の女子校である。中1の社会科の授業。先生が質問した。「仏教を始めたのは誰でしょう？」誰も答えない。しばらく静寂の時間が過ぎた。沈黙に耐え切れず、一人が口を開いた。

「天皇陛下のおばあさん？」「天皇陛下のおばあさんだったら、つい最近のことじゃない。仏教って、もっと昔からあるでしょ」「あっ、そうか。わかった。聖徳太子だ！」「仏教って、日本人が始めたのだけ？」「ハイッ！」「ハイッ！」あちこちから元気よく手が上がる。「ザビエル！」「ザビエル！」

住環境がよくなり、子ども部屋のある家がほとんどだ。食事も塾通いなどで、「個（孤）食化」が進む。親戚や近所の大人が居間に上がってくることもなくなった。必然的に大人と会話する機会が激減している。学校・塾での学び以前の、従来だったら自然と身につけていたこと、当たり前なのが親から子に、大人から子どもに少しも伝わっていない。

オリエンテーション合宿、林間（臨海）学校、部活の合宿、スキー教室、修学旅行……そうした機会に出来るだけいろんな雑談をしていただきたい。それをしていかなないと、日本の社会は「常識の断絶」がますます拡大していく。

もしかしたら、教員室でも既に「通訳」が必要ですか？

鷗友学園

「英語による英語授業」から見えること

◆英語教育を模索する私立学校

最近塾説に何うと、説明の中に、英語についてどのような教材を使用しているかという話があることが多い。たくさんある教科の中で、英語に最も授業時間数を配分している、また保護者の関心が最も高い教科であるだけに、各学校とも英語には



三方に黒板があり、余分なものは一切ないシンプルな教室。

かなり力が入っている。とりわけ女子校においては、私立大学入試で英語の配点比率が高いだけに、学校の出口の実績にストレートに反映するということがあるため、英語に力を入れざるをえないという事情がある。また、男子の保護者と違って、女子の保護者は実際に使える実用英語の習得も望んでおり、こうした点からも女子校の英語は受験英語に徹することができる男子校に倍する負担(?)がかかっている。こうした

こともあって、男子校や共学校ではまず見られない、自校の英語教育のデモンストラーションや生徒による英語のパフォーマンスが女子校ではよくある。

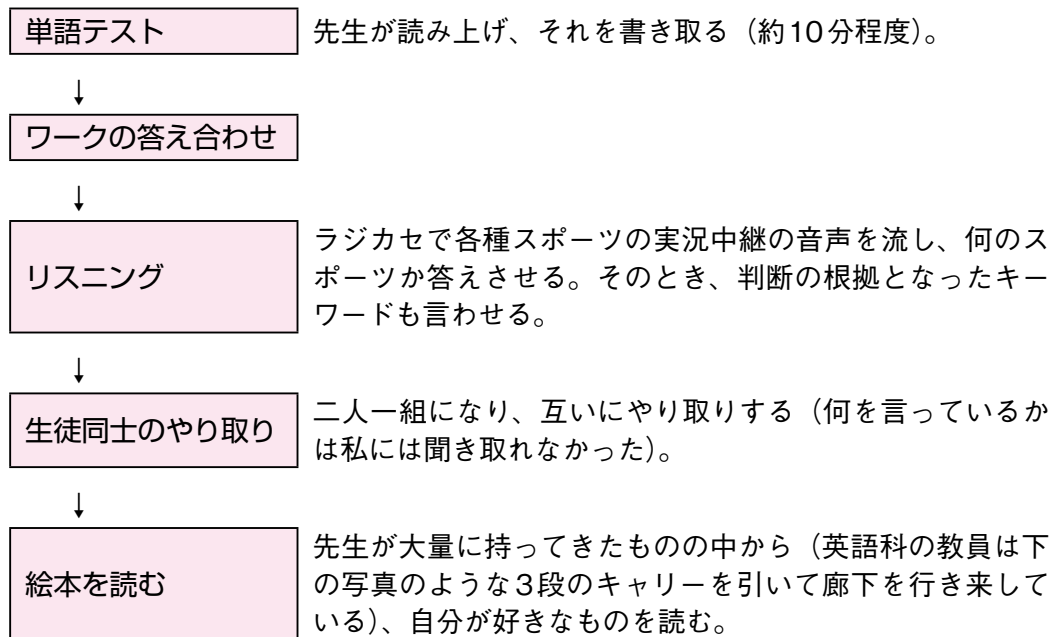
話に出る使用教材であるが、きわめて多様になっていることが近年の特徴である。「Progress21」「Treasure」「Birdland」「Just English Is It」…といった検定教科書以外の教材を使っている学校が非常に多くなっている。どのようなテキストを使うか、またどのような部分（リーディング、ライティング、リスニング、会話など）にどの程度比重を置くか、各校が他の教科以上に検討し、模索していることがよくわかる。

◆授業の特徴は「変化」と「集中」

そうした各校の英語教育の一端に触れる中で、鷗友学園が4年程前から「英語による英語授業」を行っていることが気になった。英語が苦手なこともあり、これまで各校の授業見学でも英語の授業はサツとのぞく程度であったが、今回この授業をのぞいてみたくなり、12月のある日、出かけていった。

この日、英語科の主任・高見信子先生の授業は中2であった。クラスを2分割した20人ほどのクラス。教室もセミナー室のような狭いところである。

まず、授業の展開を簡単に説明しよう。



この日は45分授業であったが、これだけ変化があるとあっという間に終わった。因みにこの間、先生は全く日本語をしゃべらない。授業全体がリスニングの比重が高いから、生徒は集中していなければたちまち理解不能になる。必然的に緊張感のある、密度の濃い授業となる。途中で辞書を引く姿もまったく見なかった。

こんな調子であるから、私がいても生徒は全く無関心。そばに行ってもノートをのぞき込んでも、全く態度に変化はなし。自分があたかも透明人間であるかのような気持ちにすらなった。印象的には、中2のクラスとは思えないくらい大人っぽい落ち着いた雰囲気であった。

◆英語教育、転換のきっかけと意図



これだけの量を持ち歩くので、英語科の教員はエレベーターを利用する。

授業の後、鷗友学園の英語教育の大きな舵取りの転換を図った背景・意図、こうしたことによる変化などについて知りたかったので、高見先生に時間を取ってもらった。ここにそのポイントと思われることを記すことで、英語科のみならず他の教科の先生にも、ご自分の教科について考える参考にしていただきたいと思います。

Q こうしたことを考えたきっかけは？

年々、生徒の人間関係作りが下手になってきたので、2004年、鷗友学園は通常各学年6クラスのところを中1については8クラス編成（1クラス30人学級）にすることにした。女の子は、友だち関係が安定しないと、勉強にも集中できないという認識である。こうした少人数編成になるという環境の変化が前提としてあったという。

Q なぜ「英語による英語の授業」であったのか？

以前から高見先生は現行の英語教育では早晚行き詰まると感じて



教材は量こそ多いが、どれも楽しそうである。

いた。「英語を英語で理解できるようにしないと、これからの社会では役立たない」「大学受験にしても、長文になればなるほどいちいち日本語に訳していたのでは追いつかなくなる」……。

「言葉は実技である」—使えるようになってはじめて意味がある。コミュニケーションを取れるようになることこそが言葉を学ぶ意味ではないのか。

「教室、校内という狭い空間でできるようにするのではなく、社会において生徒が自分の力で英語の世界を探検できるようにしてお

いてあげたい」—そう考えて、2004年に向けて、どのような英語教育にしたらいいか根本のところから考え始めた。

「ネイティブでなく、われわれ日本人教師で日本語を使わない英語授業ができないか」。

Q 他の私立では「Progress21」や「Treasure」など、検定教科書以外のテキストを使っているが、そうしたものはダメだったのか？

「教わるのではなく、生徒が自分から学ぶように出来ないか」といったことももう一つの大きなテーマだった。日本の教科書は基本的に、教師が説明、解説するようになってきている。そのやり方では、どうしてもかたちとしては受動的な学びになってしまう。レベルの高いものを使ったり、ボリュームを増やしたりしても、本質的な学びの姿勢は変わらない。

いろいろ検討した結果たどり着いたのが、オックスフォード大学出版局が出している外国語学習者用のテキスト“OPEN HOUSE”と、イギリスの小学校で広く使われている“Oxford Reading Tree”シリーズの組み合わせであった。先に、先生が大量の本を教室に持ち込んだと記したが、その一部が“Oxford Reading Tree”

である。どれもごく薄い。シリーズの最初の何冊かは絵だけで文字のない文字通りの「絵本」である。ステージが上がるにつれてだんだんに文字量が増えていく。こうした楽しい読書を積み重ねることで、生徒は徐々に英語の世界に慣れ、親しみを覚えていくようになる。中1の1年間で、ステージ4まで約100冊読み、さらにそのほかの本を合わせると、300～600冊程度読んでいるという。



Q 授業のポイントは何か？

一つは「多読」。これまでの英語教育は、どちらかというと言一句正確に捉えようとするものだった。それをわからないところがあってもいいから、わかる範囲で楽しんで読んでいくというように変えた。多読は、生徒の力に応じて楽しめる、生徒一人ひとりのペースで吸収できるというメリットがある。

従来の英語は、「はじめはよくわかったがだんだんわからなくなる」ものだった。それが今回のやり方では、「はじめはよくわからなかったがだんだんわかるようになった」というように生徒の受け止め方が変化している。

二つめはテキスト。“OPEN HOUSE”と“Oxford Reading Tree”の組み合わせがあっちはじめて可能であった。文法、リスニング、ライティングとバランスよく学べる教材。ワークにしても、機械的練習でなく身近な事柄が内容になっているので身につけやすい。

三つめはすべて英語で行うこと。日本語を介さず、英語のまま捉える習慣をつけさせたかったのは、「大学受験の先で自由自在に英語を駆使できるようにしてあげたい」と考えた結果、到達した結論だった。



Q 他学年では検定教科書の授業をやりながら、一方でこうした試みにチャレンジすることは大変だったと思う。英語科内で反対はなかったのか？

「鷗友は新しいことをやることには柔軟な姿勢の学校です。提案は私（高見先生）でしたが、英語科のみな（現在：専任13名、講師10名、ネイティブ2名）が、以前から『英語を使える生徒を育てたい』という思いを持っていました」という。校長、教頭、他の教員も「基本的に教科のことは教科に任せる」土壤があるので、「すごく心配はされたが、反対はされなかった」そうである。



洋書を借りにきたついでに日本語の本も借りていくので、図書館全体の貸出数が格段に増えるという予想外の「副産物」もあった。

◆図書館も重要なポイント

一通り話を聞き終わったあと、図書館に案内された。図書館の一画が二代目の校長であった市川源三先生の胸像が置かれた市川源三ライブラリーになっている。中央に読書用のテーブルが置かれ、部屋の二面の書棚にはたくさんの本が並んでいる。そのほとんどが洋書であった。幾つか手にとって見てみると、1冊1冊すべての背表紙にその本の総語数と難易度を記したシールが貼ってある。このシール作りだけでも大変

な作業量と容易に想像される。が、これがあることで、生徒は読書の記録をつけ、百万語をめざして読んでいるという。

前号の「ビジョナリー」の今月のクローズアップ『作業と仕事』をお読みいただいた方はご記憶だろうが、高見先生と話をしながら、私の頭の中にはずっと「この先生は『仕事』をしている」というフレーズが浮かんでいた。



◆ 「リスクを冒す」ということ

高見先生と別れた後、校長室に清水校長を訪ねた。鷗友学園の英語教育の転換については、実はずいぶん前に聞いていた。そのときに真っ先に思ったことが、「高い大学合格実績が求められる鷗友レベルでよくリスクを冒せたな」ということであった。そのことがあったので、校長にも話を聞きたかった。

GOサインを出せたのは、「生徒のレベルが上がり、また先生も鍛えられて力量が上がってきたから」だという。それでも清水校長は、英語科の一人一人に「英語で教えることをやる意志」を確認している。

全員の答えが一緒だった。「やります」。高見先生はこうも話した。「大学受験も絶対大丈夫ですから。むしろ今これをやらなければ、今以上の結果は出ません」。

決めてからは、保護者の反対を想定して、説得するための「理論武装」にも力を入れた。

「大丈夫ですから。ちゃんと力はつきます。ご辛抱ください」—そうしたことを言いつづけた。在外生活経験者を中心に、賛成してくれる人も結構いた。その一方で、子どもを塾に通わせ始めた家庭もあった……。

1年が過ぎて、効果が見えるようになると、反対は半減した。

教室に持ち込んだ大量の洋書、図書館で見せてもらった洋書のこと頭にあったので、経費的なことも聞いてみた。「2004年度以降洋書書籍代として150万～200万円使用している」そうである。

英語の授業を見学し、英語科の先生に話を聞いたわけだが、これだけのことで、学校が全体として活性化しているという印象を強く持った。

トップの指示で課題を検討するのではなく、自分たちの教科の将来像について自分たちで研究し、提案する土壌。「先生、学校のチャレンジする姿を見ているからこそ、生徒もチャレンジする」—そんなことも思った。

最後に、清水校長が何気なく口にした言葉を収録しておきたい。

「時には見えないものを見ることも必要と思います」

志望件数増大 人気校に集中

11月に実施された進研Vもぎの結果がまとまった。参加者は公立中学3年生の3割を超え、のべ志望件数は都内の私立高校だけで約76,000件と、昨年同時期より20%近く増えている。件数の増減や偏差値の昇降を前年と比較して以下にまとめた。

◆ 増えた模試の参加者

志望件数の前年比は、男子が120%、女子が118%と男子がやや高く、全体では119%。地域別には、区部117%、多摩125%と多摩地域の学校の伸びが大きい。学力段階では、上位より、中下位の学校の伸びがやや大きい。また、女子校の伸びが108%と小さい一方、特進コースの志望は133%に伸びている。

件数が増えたのは、①多摩地域に新会場を増設したこと、②中学校が校内でパンフレットを配るなど、模試への参加を促したことがあげられる。学力段階で区切って前年比を調べると、志望者の平均偏差値が44以下の学校が133%ともっとも伸びている。学力中下位の参加者が増えている模様だ。

順	学校名	増加数	率
1	明大付属明治	638	337%
2	杉並学院	552	141%
3	八王子	537	137%
4	関東第一	518	140%
5	豊島学院	503	138%
6	東京成徳大学	437	158%
7	日大鶴ヶ丘	435	138%
8	錦城	409	132%
9	大成	402	185%
10	豊南	386	143%
11	桜丘	375	160%
12	拓大第一	325	128%
13	広尾学園	323	318%
14	城西大附城西	277	159%
15	駒込	257	152%
15	実践学園	257	121%
17	八王子実践	243	156%
18	中大附属	240	129%
19	大東文化大一	226	138%
20	東海大菅生	223	141%

左の表では、前年より志望件数が増えた学校の順に並べた(男女合計、科やコースの合計の増加件数で表示。8ページからの表では、一部の学校のデータを割愛して掲げた)。

昨年は法政大学(562件増)だけだった増加件数500件以上の学校が5校に増え、300件以上は13校(昨年1校)と激増している。

明大付属明治、杉並学院、八王子など増加件数の多い学校のほかに、前年比増加率では、広尾学院(318%)、帝京大学(269%)、大成(185%)、和光(178%)、上野学園(178%)、堀越(158%)、東洋女子(158%)など、新しい顔ぶれが加わってきた。

男女別の増加順では、男子は①豊島学院250件増、②明大付属明治241件増、③大成232件増、④杉並学院218件増、⑤八王子実践193件増。⑥関東第一185件増、⑦錦城182件増。

女子は①明大付属明治397件増、②八王子実践238件増、③豊島学院233件増、④日大鶴ヶ丘186件増、⑤八王子173件増。⑥関東第一154件増、⑦杉並学院146件増と、全体の増加分が特定の人気校に集中する傾向がみられる。

模試参加者の増大で、志望件数の比較には補正が必要。区部で0.85倍、多摩地域では0.8倍程度に縮小して、前年と比べるのが妥当。また、学力層が下方に拡大したため、各校の平均偏差値が軒並みダウンしていることにも留意されたい。

学校名	科・コース		07年11月		06年11月	
			志望数	平均	志望数	平均
錦城学園	普	男	401	45.6	347	46.2
	普	女	336	47.1	226	48.0
正則学園	普(進学)	男	133	43.9	160	45.1
	普(スポーツ)	男	24	43.8	37	43.5
東洋	普(文理)	男	417	51.3	461	51.8
	普(文理)	女	524	52.2	579	52.9
	普(特進)	男	384	56.3	248	58.1
	普(特進)	女	447	57.6	317	58.3
	普	男	510	60.0	269	60.3
明大付属明治	普	女	397	60.2	—	—
神田女学園	普	女	96	40.2	92	41.2
麹町学園女子	普(大学進学)	女	94	46.7	82	46.0
	普(特進2類)	女	15	50.4	26	54.0
	普(特進1類)	女	31	52.7	—	—
東京家政学院	普(総進)	女	43	46.4	53	48.0
	普(特進)	女	12	51.0	7	54.4
千代田女学園	普(総進[文理])	女	15	45.8	31	48.1
	普(国際)	女	3	53.0	4	45.5
	普(特進[文科])	女	2	49.0	—	—
	普(特進[理薬])	女	9	48.8	6	54.0
二松学舎大附	普(普)	男	385	46.4	326	45.8
	普(普)	女	296	47.3	242	49.1
	普(特進)	男	43	50.8	—	—
	普(特進)	女	49	52.0	—	—
正則	普	男	482	46.9	424	47.2
	普	女	296	47.8	211	48.3
東海大高輪台	普	男	435	52.5	379	53.3
	普	女	321	53.5	270	55.2
明治学院	普	男	352	56.8	379	57.9
	普	女	499	58.3	508	59.6
慶応義塾女子	普	女	147	62.7	128	65.2
広尾学園	普(芸術・文理)	男	48	47.6	—	—
	普(芸術・文理)	女	153	46.0	61	48.4
	普(特進1類)	男	44	55.9	14	57.0
	普(特進1類)	女	50	56.7	31	56.8
	普(特進2類)	男	48	54.5	21	52.4
	普(特進2類)	女	90	53.4	21	51.8
	普(準特進)	男	11	51.3	—	—
東京女子学園	普(進学)	女	27	44.8	32	46.3
	普(特進)	女	24	51.8	13	53.4
日体荏原	普(総合)	男	90	39.0	91	42.4
	普(総合)	女	50	40.5	80	40.9
	普(文理)	男	11	43.5	8	44.5
	普(文理)	女	3	46.3	3	49.7
	普(体育)	男	51	39.9	35	40.2
	普(体育)	女	19	41.5	19	41.7
大森学園	普(進学)	男	107	40.9	100	41.2
	普(進学)	女	84	42.4	59	41.8
	普(特進)	男	18	44.2	—	—
	普(特進)	女	10	45.4	—	—
	工業系	男	45	36.8	32	37.2
東京実業	普(文理)	男	119	41.7	71	43.3
	普(文理)	女	60	40.0	52	41.6
	普(ビジネス)	男	16	38.7	27	39.6
	普(ビジネス)	女	17	44.8	16	39.7
	工学系(機械)	男	24	36.8	24	40.7
	工学系(電気)	男	7	41.7	10	46.1
蒲田女子	普(社会福祉)	女	20	38.8	33	41.5
	普(幼児教育)	女	40	40.4	39	40.7
	普(スポーツ)	女	11	41.4	19	38.5
	普(生活文化)	女	15	36.4	5	44.4
	普(デザイン)	女	25	43.3	25	45.2
東京	普	男	254	50.6	230	50.9
	普	女	238	51.5	161	51.5
立正	普	男	64	47.1	61	47.7
	普	女	34	47.7	44	47.3
攻玉社	普	男	13	54.2	20	60.5
小野学園女子	普(1類)	女	27	42.7	19	44.7
	普(2類)	女	4	39.5	6	37.7

◆ 明大明治、杉並学院の人気沸騰

来春、調布に移転し、共学となる明大付属明治は400件近い女子を集め合計907件、前年比638件増と昨年の法政大学の記録を破っている。二松学舎大附は特進開設で207件の増加。特進ブームのなか、特進なしの正則に800件近い志望が集まっている。

推薦を導入した慶応女子は微増。全コース共学募集とした広尾学園は、昨年の148件から一気に3倍増の471件へ。特進募集を拡大した東京女子学園、新たに設けた大森学園、日本工大駒場も伸びている。

國學院は続伸して男女計1,600件を超えた。一方、英語の特別選抜クラスを設けた富士見丘は減らしている。データには都立もぎの併願記入が多いため、私立単願者の数値は全体数が増えると、埋もれてしまうようだ。

都内生の併願入試を2月に戻した駒澤大学は、男子が100件以上の増加。中学開設のため、高校では難関進学コースの募集を止めた東京農大第一は100件以上の減少。

今年、上位都立の併願ニーズを捉えたのは日大鶴ヶ丘。新制服効果も手伝って、女子は250件以上の増加。影響で國學院久我山、日大第二が大幅に減らしている。

東亜学園、堀越、実践学園、東京立正など学力層の拡大で、増加が目立つ。なかでも、いまをときめく「ハニカミ王子」の杉並学院は男女計1,885件と人気沸騰。

男子の増加件数トップの豊島学院は、類型を再編成して前年比501件の増加。豊南、城西大附城西も大幅に伸びている。

中大附属は大幅増、中大杉並も増加。対照的に文京区の中央大学は減少。募集2年目の立教池袋、東京女学館も増加している。

医療系の特進コースを新設した都文館、帝京八王子にも20件を超える志望者が集まる一方、千代田女学園、日出の伸長はこれから。

青 稜	普 (普)	男	269	56.4	250	55.8
	普 (普)	女	210	57.6	183	57.3
朋 優 学 院	普 (進学)	男	172	45.5	141	46.5
	普 (進学)	女	286	47.1	272	46.7
	調理	男	24	40.3	16	43.0
	調理	女	35	41.3	30	43.6
	普 (特進)	男	42	52.0	39	52.1
	普 (特進)	女	41	54.2	60	51.2
	普 (美術)	男	11	42.5	3	43.7
	普 (美術)	女	47	48.1	39	48.0
	デザイン	男	7	44.9	6	45.5
	デザイン	女	71	47.1	53	48.5
文 教 大 付 属	普	男	111	52.5	83	53.6
	普	女	90	52.2	86	54.7
日 本 音 楽	普 (幼児教育)	女	13	41.0	10	42.6
	音 (音)	女	29	43.0	21	44.6
	音 (バレエ)	女	31	42.0	18	47.2
	音 (アドバンス)	女	5	40.6	3	47.7
品川エトワール女子	普 (一般)	女	117	39.4	91	40.4
	普 (マルチメディア表現)	女	19	39.3	13	43.5
自由ヶ丘学園	普 (国際)	女	13	42.9	—	—
	普	男	82	38.0	79	40.6
日 本 工 大 駒 場	普 (総進)	男	76	45.1	—	—
	普 (総進)	女	18	48.7	—	—
	普 (理数特進)	男	37	47.8	32	51.5
	普 (理数特進)	女	3	52.7	2	52.0
	普 (特進)	男	15	48.5	—	—
	普 (特進)	女	5	53.0	—	—
	国際工学	男	11	45.4	31	48.9
	国際工学	女	10	42.7	2	47.0
	理数工学	男	58	43.7	45	47.4
	理数工学	女	6	45.0	—	—
	機械	男	67	41.4	63	42.5
	建築	男	36	39.7	31	39.4
	電子情報	男	27	43.7	47	43.6
東 京 学 園	普 (普)	男	85	40.2	68	42.5
	普 (情報ビジネス)	男	6	40.3	4	39.3
	普 (選抜)	男	5	40.8	8	43.6
目 黒 学 院	普 (総進)	男	69	46.2	75	46.3
	普 (体育)	男	8	37.1	12	39.2
	普 (特進)	男	21	52.3	14	49.8
トキワ松学園	普 (美術)	女	26	49.5	25	45.8
	普 (文系)	女	11	49.1	5	53.0
	普 (理系)	女	4	48.3	7	44.0
日 出	普 (文系特進)	女	4	51.5	3	55.3
	普 (総合)	男	101	41.4	82	45.8
	普 (総合)	女	163	42.6	147	43.4
	普 (スポーツ)	男	6	38.0	6	38.0
	普 (スポーツ)	女	8	47.5	11	38.1
	普 (芸能)	男	5	39.6	5	39.6
	普 (芸能)	女	24	41.8	17	44.9
	普 (特進ゼミ)	男	2	47.0	3	51.3
	普 (特進ゼミ)	女	4	41.0	2	52.0
	普 (メディカル)	男	10	48.0	5	54.8
多 摩 大 目 黒	普 (メディカル)	女	3	48.7	2	51.0
	普	男	222	51.4	217	51.6
八 雲 学 園	普	女	202	51.9	190	52.7
	普 (普)	女	24	47.6	25	51.6
富 士 見 丘	普 (特進)	女	4	60.0	8	59.4
	普 (普)	女	95	53.0	158	53.7
関 東 国 際	普 (英語特選)	女	11	56.7	—	—
	普 (文系)	男	93	47.2	83	49.8
	普 (文系)	女	153	47.9	177	50.6
	普 (理系)	男	56	50.3	34	50.5
東 京 女 学 館	普 (理系)	女	39	50.4	29	47.5
	普	女	43	57.8	30	59.4
青 山 学 院	普	男	334	59.0	261	61.0
	普	女	330	60.9	336	63.0
國 學 院	普	男	933	56.8	877	57.2
	普	女	715	56.9	656	57.9
国 士 館	普	男	259	46.5	327	47.7
	普	女	116	47.8	116	49.7
駒 澤 大 学	普	男	606	48.9	505	49.8
	普	女	483	50.1	430	50.5
駒 場 学 園	普 (一般)	男	257	45.0	294	46.7
	普 (一般)	女	147	45.8	145	46.7

◆ ほっとする集計結果

伸び悩む女子校のなかで東洋女子の100件近い増加が光っている。愛国、江戸川女子、京華女子、藤村女子も増えている。

特進の上位にアドバンスを設けた駒込は前年比152%、257件の大幅増。大東文化大一、帝京、成立学園も増えている。

大学合格実績への評価が高まっている桜丘、順天、東京成徳大学は140～160%の大幅伸長。ほかに中央学院大、岩倉、上野学園、立志舎、関東第一、足立学園、共栄学園などの伸びも大きい。逆に、淑徳、淑徳SC、中村、かえつ有明は減らしている。

志望件数100件以上の多摩地域の学校を増加率の順に並べると、①帝京大学269%、②大成185%、③和光178%、④八王子実践156%、⑤工学院大附属154%、⑥明星学園154%、⑦創価144%、⑧東海大菅生141%となる。

今年、多摩地域には模試の新しい会場ができ、参加者が急増した。併願募集の多い大規模な学校が志望件数を伸ばすなかで、教育内容に独自色の強い学校や、小さくても進学実績の確かな学校の伸びも目立っている。

トップの帝京大学は、大学合格実績を飛躍的に伸ばしている学校。合格者(件)数の卒業生数に占める割合(占有率)では、この2年間で、早慶上智が21→80%、MARCHが46%→158%と驚異的な伸びを示している。

多摩地域では、新たな中高一貫校の開校が刺激となって進学への関心が高まり、科やコースの新設、改編が進んでいる。模試を通じて情報の伝達をはかどり、学校の序列が今後徐々に変化していくものと考えられる。

全体的には、共学、特進、付属校への人気が続いている様子だが、模試参加者の増大で、これまで目立たなかった学校にも日が当たって、ほっとする集計結果となっている。

駒場学園	食	男	21	39.7	12	40.4
	食	女	17	40.6	9	45.4
	普(特進)	男	16	50.8	31	52.7
	普(特進)	女	11	51.0	17	51.7
	普(国際)	男	7	47.7	3	51.0
日本学園	普(国際)	女	33	47.4	16	49.4
	普(総進)	男	89	42.1	94	44.0
	普(総進選抜)	男	10	39.7	7	38.7
	普(スポーツ)	男	27	39.8	19	41.7
	普(特進)	男	26	47.8	16	50.9
武蔵工大付属	普	男	80	53.5	131	54.4
国本女子	普(総合学習)	女	15	41.2	26	42.5
	普(アドバンスト)	女	3	54.3	3	49.3
佼成学園女子	普(進学)	女	54	47.2	77	50.7
	普(スポーツ)	女	7	47.9	7	44.1
	普(特進文理)	女	13	54.2	13	56.1
	普(メデイカル)	女	2	45.5	2	54.0
	普(特進留学)	女	7	47.4	19	53.3
松蔭	普	男	86	48.5	66	50.0
	普	女	78	47.8	94	50.1
下北沢成徳	普(進学)	女	102	45.5	105	48.3
	普(国際)	女	24	52.0	25	47.8
	普(特進)	女	27	52.5	15	55.5
大東学園	普(普)	男	89	37.7	70	40.7
	普(普)	女	83	38.7	76	41.3
	普(福祉)	男	8	34.6	1	37.0
	普(福祉)	女	22	41.8	12	42.4
玉川聖学院	普	女	14	48.5	10	48.4
東横学園	普(普)	女	17	43.9	20	44.6
	普(英語留学)	女	4	47.3	6	53.0
日女体大二階堂	普(体育)	女	57	40.4	49	41.0
	普(普)	女	37	41.7	38	42.3
	普(福祉)	女	6	35.3	19	41.8
戸板女子	普	女	45	45.5	40	47.1
	普	男	343	54.0	328	55.9
東京農大第一	普	女	244	55.4	200	56.6
	普	男	536	51.8	536	53.3
日大櫻丘	普	女	499	52.3	484	54.7
	普	男	56	55.9	83	55.9
成城学園	普	女	100	55.9	129	58.8
	普	男	232	62.1	218	62.8
海城	普	男	208	58.2	221	59.2
	普(特進)	男	126	53.6	80	53.4
保善	普(大学進学)	男	249	46.8	124	49.7
	普	女	31	40.3	14	39.9
目白学園	普(選抜)	女	76	46.4	72	48.3
	普(特進)	女	29	54.3	12	52.8
明大付属中野	普	男	676	57.1	655	58.4
東京文化	普(一般進学)	女	49	43.4	57	46.6
	普(特進)	女	13	55.0	14	49.6
	普(総進)	女	73	41.3	76	43.3
宝仙学園	普(保育)	女	57	40.6	74	43.3
	普(特進)	女	34	50.1	24	46.0
	普(留学)	女	5	46.6	2	51.5
	普(文理)	男	470	48.0	396	49.2
東亜学園	普(文理)	女	324	49.7	317	50.3
	普(体)	男	29	44.7	35	42.2
	普(文理特進)	男	45	52.8	34	55.3
	普(文理特進)	女	44	54.7	34	55.4
堀越	普	男	289	39.8	166	40.0
	普	女	246	41.5	173	41.6
実践学園	普(普)	男	541	48.4	401	48.5
	普(普)	女	463	50.2	379	50.6
	普(文理)	男	70	51.7	63	49.7
	普(文理)	女	88	53.6	104	53.0
	普(英語)	男	26	50.8	22	47.6
	普(英語)	女	55	52.6	37	56.0
	普(特進)	男	104	54.9	127	55.3
佼成学園	普(特進)	女	144	56.4	101	56.9
	文理	男	106	53.4	103	54.0
専修大付属	普	男	669	52.4	646	53.6
	普	女	508	54.3	492	54.5
文化女大杉並	普(総合)	女	230	48.7	219	51.0
	普(英)	女	57	54.8	57	55.0
	普(特進)	女	47	57.5	45	59.2

杉並学院	普(文理)	男	647	49.0	429	50.0
	普(文理)	女	668	49.7	522	50.6
	普(特進)	男	302	54.7	194	56.2
	普(特進)	女	268	55.3	188	56.4
女子美大付属	普	女	97	49.5	92	47.6
	普(スタンダード)	男	101	45.0	75	45.7
	普(スタンダード)	女	132	46.7	86	46.0
東京立正	普(アドバンスト)	男	11	52.2	23	46.8
	普(アドバンスト)	女	23	49.9	25	48.4
	普	男	409	57.8	388	58.4
日大第二	普	女	302	59.0	407	59.4
	普(普)	男	627	53.1	530	54.1
日大鶴ヶ丘	普(普)	女	613	54.6	427	55.5
	普(特進)	男	166	59.0	92	60.3
	普(特進)	女	183	59.9	105	59.8
中大杉並	普	男	612	60.2	528	60.5
	普	女	410	60.1	403	60.6
国学院久我山	普	男	461	57.7	462	59.9
	普	女	217	59.7	313	61.2
早大高等学院	普	男	486	62.9	398	64.6
東京女子学院	普	女	35	49.2	32	51.0
	普(文系)	女	77	57.9	83	56.3
富士見	普(理系)	女	32	57.0	32	58.1
	普	男	100	56.5	94	57.6
学習院鴨	普	男	170	61.2	153	62.7
立教池袋	普	男	55	55.1	26	50.6
	普(普)	男	646	46.0	396	47.0
豊島学院	普(普)	女	670	46.8	437	47.6
	普(文理)	男	60	44.4	—	—
	普(文理)	女	68	45.8	—	—
	普(選抜)	男	87	52.1	49	51.2
	普(選抜)	女	104	52.2	82	52.1
	普(特進)	男	100	55.3	70	55.2
昭和鉄道	普(特進)	女	99	54.5	101	55.3
	鉄道	男	158	43.0	112	44.0
本郷	鉄道	女	3	46.7	5	51.6
	普	男	232	58.4	249	59.7
十文字	普(普)	女	188	55.4	175	55.6
	普(選抜)	女	60	61.1	65	60.5
淑徳巣鴨	普(特進総合)	男	155	51.9	123	54.9
	普(特進総合)	女	216	52.2	123	53.9
	普(特選文科)	男	31	50.5	32	57.8
	普(特選文科)	女	81	52.8	52	56.0
	普(特選理科)	男	65	53.2	39	56.5
	普(特選理科)	女	40	53.8	19	58.7
	普(スーパー特選文科)	男	22	57.4	14	62.4
	普(スーパー特選文科)	女	18	59.5	25	59.8
	普(スーパー特選理科)	男	44	59.0	35	56.7
普(スーパー特選理科)	女	19	57.1	16	61.4	
豊島岡女子	普	女	213	62.7	317	64.7
	普	女	25	47.9	41	45.1
川村	普(進学2)	男	306	42.2	224	42.3
	普(進学2)	女	367	43.3	250	43.7
	普(進学1)	男	179	43.5	110	43.5
	普(進学1)	女	245	44.7	185	45.2
	普(特進)	男	35	53.6	26	53.3
	普(特進)	女	58	49.0	31	53.9
城西大附城西	普(進学選抜)	男	47	49.1	28	48.0
	普(進学選抜)	女	44	47.8	41	48.3
	普	男	422	49.3	258	51.1
郁文館	普	女	322	51.2	209	51.6
	普(普)	男	151	50.4	157	52.7
郁文館グローバル	普(医系特進)	男	20	56.5	—	—
	国際	男	26	50.4	12	48.8
京北	普(普)	男	160	44.0	116	44.5
	普(特進)	男	20	51.3	16	52.3
京北学園白山	商	男	61	37.4	39	39.2
	普(文理)	男	216	43.1	143	43.9
昭和第一	普(文理)	女	148	44.9	99	44.3
	商(商)	男	46	37.5	16	40.9
	普(特進)	男	42	46.3	27	50.0
日大豊山	普(特進)	女	24	47.7	23	51.7
	普	男	339	50.3	364	51.9
京華	普(進学)	男	197	48.2	169	49.4
	普(特進)	男	65	55.2	88	57.1

淑徳S.C	普(普)	女	47	42.4	61	43.4	
	普(進学)	女	52	40.0	30	42.7	
	普(幼児・保育進学)	女	72	40.3	98	41.9	
	普(看護・医療進学)	女	32	41.7	25	41.0	
	普(特進)	女	8	47.4	14	46.1	
貞静学園	普(総進)	女	185	46.4	117	47.4	
	普(特進)	女	87	52.0	56	54.7	
東洋女子	普(文理)	女	165	48.5	162	49.6	
	普(特進)	女	92	56.1	84	55.2	
	普(英)	女	37	50.2	42	51.1	
	普(理数)	女	34	51.6	24	52.4	
文京学院大女子	普(スタンダード)	女	73	42.2	54	44.2	
	普(アドバンス)	女	32	43.0	29	45.6	
	商(スタンダード)	女	53	39.8	51	41.7	
	商(アドバンス)	女	17	41.0	10	42.5	
村田女子	普(文理)	女	214	45.8	182	46.7	
	普(特進)	女	69	50.7	46	53.7	
京華女子	商	男	115	38.0	82	41.3	
	商	女	115	41.2	97	42.4	
京華商業	商(大学進学)	男	15	42.3	13	47.3	
	商(大学進学)	女	5	45.2	12	46.4	
	普(進学)	男	230	47.9	188	48.5	
	普(進学)	女	286	48.4	165	51.0	
駒込	普(特進)	男	81	52.8	66	54.2	
	普(特進)	女	90	51.9	74	56.2	
	普(アドバンス)	男	19	54.3	—	—	
	普(アドバンス)	女	44	54.1	—	—	
	東京音大付属	音	男	11	49.8	18	50.6
東邦音大附東邦	音	女	35	50.3	32	47.9	
	音	男	3	54.3	7	51.9	
中央大学	音	女	15	46.7	13	46.0	
	普	男	382	58.9	391	60.2	
芝浦工業大学	普	女	303	59.4	445	60.3	
	普	男	32	52.8	31	54.7	
城北大	普	男	228	60.9	225	61.6	
	普(総進)	男	393	48.9	306	49.9	
	普(総進)	女	291	49.6	193	50.9	
	普(特進)	男	94	54.9	57	57.2	
	普(特進)	女	45	56.0	41	53.0	
淑徳	普(進学)	男	172	53.4	172	55.1	
	普(進学)	女	194	54.7	183	54.3	
	普(特進)	男	72	59.5	77	61.2	
	普(特進)	女	111	60.4	135	60.3	
	普(スーパー特進)	男	41	61.8	51	64.6	
	普(スーパー特進)	女	64	62.8	51	63.3	
	普(留学)	男	9	49.9	5	47.2	
	普(留学)	女	14	56.0	14	52.6	
	東京家政大附	普	女	135	50.6	145	49.1
	帝京	普(文理)	男	173	49.3	119	49.3
普(文理)		女	198	50.7	144	51.2	
普(理数)		男	90	50.4	71	50.0	
普(理数)		女	45	51.8	31	54.3	
普(インターナショナル)		男	6	54.0	8	52.3	
普(インターナショナル)		女	19	55.0	19	55.7	
普(文系)		男	35	44.5	34	45.0	
普(文系)		女	50	50.3	39	49.6	
成立学園		普(進学3類)	男	34	43.7	29	43.6
		普(進学2類)	男	104	44.8	91	45.0
	普(進学2類)	女	115	43.2	99	46.1	
	普(進学1類)	男	92	46.2	92	44.4	
	普(進学1類)	女	94	44.5	86	47.0	
	普(特進G類)	男	20	50.7	14	53.5	
	普(特進G類)	女	33	53.1	30	54.3	
	普(特進S類)	男	37	49.6	29	51.6	
	普(特進S類)	女	30	50.8	38	49.0	
	安部学院	商	女	64	36.0	48	38.7
桜丘	普(進学)	男	243	47.2	152	48.8	
	普(進学)	女	321	48.0	217	48.6	
	普(特進)	男	87	53.4	43	54.9	
	普(特進)	女	120	54.0	59	53.7	
	普(特待)	男	90	56.1	59	58.0	
	普(特待)	女	143	57.2	99	58.1	
	順天	普(特進)	男	220	56.5	154	57.5
順天	普(特進)	女	202	57.4	160	58.4	
	普(特進選抜)	男	79	59.2	65	59.5	

順天	普(特進選抜)	女	101	59.6	71	59.0
	普(英語)	男	53	55.3	35	55.6
	普(英語)	女	88	56.3	69	56.4
星美学園	普	女	16	45.4	23	51.7
	普(進学)	女	70	43.6	48	47.2
滝野川女子	普(特進)	女	9	45.7	17	50.7
	普(特進選抜)	女	11	56.4	13	50.7
東京成徳大学	普(進学)	男	309	46.3	174	48.6
	普(進学)	女	335	47.5	264	48.5
	普(特進)	男	143	57.3	72	59.1
	普(特進)	女	149	58.0	113	58.7
	普(進学選抜)	男	131	52.6	62	54.2
	普(進学選抜)	女	124	53.9	69	54.2
武蔵野	普(M)	女	96	37.9	90	40.1
	普(特進)	男	16	41.5	15	41.2
	普(特進)	女	43	41.9	18	42.8
	普(インテンシブ)	男	12	41.2	11	39.7
	普(インテンシブ)	女	18	41.7	17	41.6
	普(幼児教育)	女	56	40.3	34	40.8
駿台学園	普(進学)	男	139	44.1	104	46.2
	普(進学)	女	99	45.6	112	47.2
	普(体育)	男	14	38.5	32	41.1
	普(体育)	女	5	40.0	6	44.3
	普(特別選抜)	男	20	46.8	21	50.9
	普(特別選抜)	女	17	50.8	17	47.7
日本橋女学館	普(総進)	女	44	41.3	47	40.5
	普(スペシャリスト養成)	女	4	39.5	8	41.8
	普(特進)	女	13	45.3	4	48.5
中央学院大中央	普(スーパー特進)	女	5	49.6	5	54.2
	普	男	102	41.0	81	40.7
	普	女	81	42.1	55	41.3
	商	男	26	34.8	15	37.6
岩倉	商	女	22	36.4	26	42.7
	普(進学)	男	56	39.4	34	45.0
	普(体)	男	18	38.5	13	39.2
	商	男	25	40.2	19	38.5
	機械	男	34	39.6	33	41.4
上野学園	運輸	男	54	41.6	44	42.7
	普(総進)	男	80	41.2	42	43.2
	普(総進)	女	46	45.7	29	41.2
	普(特進)	男	19	45.7	11	45.6
	普(特進)	女	12	51.0	4	54.5
日大第一	音	男	2	39.0	—	—
	音	女	14	43.3	11	40.5
	普	男	378	51.1	399	52.0
安田学園	普	女	287	51.7	213	53.7
	普(総進)	男	313	47.6	276	47.3
	普(進学選抜)	男	112	51.7	74	52.8
	普(特進)	男	149	54.9	131	56.5
	商	男	39	39.6	35	40.2
	建築	男	44	42.2	36	42.8
立志舎	情報処理	男	74	42.9	47	42.7
	電気情報	男	24	41.5	31	40.9
	普(平日)	男	39	42.1	21	38.4
中村	普(平日)	女	35	40.4	20	43.7
	普(大学進学)	女	46	46.4	85	47.4
	普(特進)	女	30	54.4	41	52.8
かえつ有明	普(国際)	女	17	48.0	18	53.3
	普(総合進学)	男	161	47.2	205	46.9
	普(総合進学)	女	155	47.6	180	47.9
	普(難関大進学)	男	17	54.5	32	54.9
	普(難関大進学)	女	19	53.6	45	56.0
関東第一	普(普)	男	664	40.9	479	42.8
	普(普)	女	549	42.6	395	43.6
	普(進学)	男	119	46.6	72	47.2
	普(進学)	女	89	47.0	74	50.0
	普(進学選抜)	男	38	46.1	24	48.7
	普(進学選抜)	女	37	52.5	14	55.1
	普(特進)	男	61	52.0	45	52.3
	普(特進)	女	70	53.6	36	54.3
	普(スポーツ)	男	58	39.7	33	39.3
	普(スポーツ)	女	14	38.4	12	39.8
	機械・電気	男	97	39.1	87	40.0
	建築ビジュアル	男	20	37.6	26	37.9
建築ビジュアル	女	12	42.1	13	43.5	

愛 国	普	女	185	40.6	136	42.4
	商	女	42	38.9	23	41.9
	家政	女	42	39.6	50	42.4
	衛生看護	女	56	44.3	37	45.3
江戸川女子	普(2類)	女	333	57.1	300	56.9
	普(3類)	女	256	61.0	210	60.9
	英	女	98	57.8	101	58.3
開 成	普	男	247	56.1	190	57.4
北 豊 島	普(総合)	女	27	42.2	24	48.5
	普(国際英語)	女	12	49.3	11	47.4
	普(特進)	女	13	52.2	11	55.6
足立学園	普	男	327	51.8	255	53.0
	文理	男	196	55.9	141	58.0
潤 徳 女 子	普(総合)	女	69	43.8	66	44.7
	商(情報処理)	女	13	41.1	13	44.2
	普(進学)	女	12	43.2	8	46.4
	普(芸術)	女	24	44.6	21	48.8
	普(福祉)	女	22	41.5	8	40.9
共 栄 学 園	普(普)	男	271	45.1	178	45.3
	普(普)	女	332	47.2	261	47.6
	普(特進)	男	104	53.4	72	53.7
	普(特進)	女	141	54.7	116	57.3
	普(進学)	男	165	42.2	119	43.6
修 徳	普(進学)	女	115	42.1	82	44.9
	普(特進)	男	23	47.8	32	47.8
	普(特進)	女	31	48.5	31	49.4
	体(スポーツ科学)	男	27	40.1	26	39.7
多摩大聖ヶ丘	普	男	27	51.8	19	54.8
	普	女	16	51.8	11	52.8
駒沢学園女子	普(総合)	女	48	47.8	64	45.8
	普(特進)	女	8	55.4	10	51.1
鶴 川	普	女	38	40.8	24	39.5
明 星	普	男	238	48.8	203	49.6
	普	女	203	50.0	181	50.9
桐 朋 女 子	普	女	29	56.0	42	54.7
日 大 第 三	普(普)	男	107	53.9	113	55.7
	普(普)	女	108	56.3	121	57.9
	普(特進)	男	15	61.3	15	61.1
	普(特進)	女	8	62.8	14	61.5
桜 美 林	普	男	80	53.6	98	53.8
	普	女	90	54.9	82	54.0
玉 川 学 園	普	男	42	48.1	47	52.6
	普	女	55	52.1	48	53.3
和 光	普	男	69	50.2	53	47.9
	普	女	63	46.9	21	51.7
工学院大附属	普(普)	男	252	48.4	162	51.1
	普(普)	女	70	49.5	45	53.9
	普(文理特進)	男	54	56.1	30	56.9
	普(文理特進)	女	10	58.1	13	57.9
聖パウロ学園	普(普)	男	42	43.8	34	45.8
	普(普)	女	27	43.1	31	47.2
八 王 子 実 践	普(文理)	男	96	45.0	135	45.7
	普(文理)	女	67	44.7	139	46.4
	普(特進)	男	17	46.9	29	51.5
	普(特進)	女	23	50.1	41	47.7
	普(普)	男	193	44.6	—	—
	普(普)	女	238	44.4	—	—
	調	男	15	48.8	10	47.4
	調	女	30	44.7	21	46.0
共立女子第二	普	女	67	49.8	52	51.5
東京純心女子	普	女	31	52.8	24	51.1
八 王 子	普(文理普通)	男	455	50.9	368	53.1
	普(文理普通)	女	587	51.9	414	52.8
	普(芸術)	男	20	46.8	7	48.1
	普(芸術)	女	35	49.7	20	52.6
	普(文理特進A)	男	143	60.1	112	62.4
	普(文理特進A)	女	115	60.6	95	61.4
	普(文理特進B)	男	85	57.9	51	60.1
	普(文理特進B)	女	88	60.4	41	59.6
	普(文理進学)	男	181	56.0	108	58.6
	普(文理進学)	女	208	57.4	163	57.9
	普(英語)	男	23	52.9	19	54.1
	普(英語)	女	61	52.4	66	54.2
	帝 京 八 王 子	普(文理)	男	99	49.4	82
普(文理)		女	98	50.8	68	51.2

帝 京 八 王 子	普(医療系特進)	男	9	53.7	3	56.0
	普(医療系特進)	女	26	49.6	27	52.0
明大中野八王子	普	男	391	55.6	275	57.4
	普	女	252	56.9	200	57.5
帝 京 大 学	普	男	116	58.6	55	58.3
	普	女	137	59.7	39	57.9
法 政 大 学	普	男	620	57.2	586	58.6
	普	女	525	58.0	419	58.7
藤 村 女 子	普(総合)	女	103	44.2	83	48.2
	普(スポーツ科学)	女	47	47.8	27	45.5
	普(国際コミュニケーション)	女	14	49.6	12	51.8
聖 徳 学 園	普	男	27	48.1	35	51.4
	普	女	19	49.8	25	56.5
成 蹊	普	男	134	58.0	140	59.5
	普	女	152	60.9	188	60.8
大 成	普(普)	男	465	42.5	233	43.4
	普(普)	女	241	43.7	161	44.1
	普(情報)	男	48	38.6	16	41.6
	普(情報)	女	22	42.1	5	39.0
	普(特進)	男	65	49.9	34	47.5
明星学園	普(特進)	女	34	50.9	24	51.8
	普	男	193	51.3	93	52.5
昭和第一学園	普	女	156	52.9	134	52.1
	普	男	492	43.2	428	45.5
立 川 女 子	普	女	372	44.2	275	45.3
	工業系	男	80	40.1	—	—
東京電機大	普	女	197	41.6	189	42.7
中 大 附 属	普	男	375	54.5	310	56.7
	普	女	100	54.9	120	57.2
国際基督教大	普	男	659	60.1	493	61.2
	普	女	421	60.4	347	60.6
桐 朋	普	男	101	61.4	66	63.5
	普	女	165	63.0	166	64.0
国立音大附属	普	男	61	64.0	50	64.6
	普	男	27	49.7	20	52.8
啓 明 学 園	普	女	63	51.8	66	53.4
	音	女	17	48.1	17	50.5
早 稲 田 実 業	普	男	24	45.9	12	50.3
	普	女	21	51.0	17	55.6
東 海 大 菅 生	普	男	391	59.6	372	60.2
	普	女	122	60.3	180	62.9
	普(普)	男	373	46.2	305	46.5
	普(普)	女	265	47.0	163	46.1
	普(体育)	男	19	40.9	17	42.6
錦 城	普(特進)	男	60	53.5	33	52.6
	普(特進)	女	53	53.0	23	53.3
	普(普)	男	721	56.3	539	57.6
	普(普)	女	554	57.0	453	58.1
	普(特進)	男	253	61.8	139	62.9
白 梅 学 園	普(特進)	女	170	62.5	158	63.1
	普(選抜)	女	63	49.7	74	49.8
	普(保育)	女	95	44.5	77	45.8
	普(総合)	女	113	46.4	124	47.6
	普(特選S)	女	21	52.3	26	54.8
創 価	普(特選G)	女	28	57.2	34	52.5
	普	男	113	51.9	90	57.7
拓 大 第 一	普	女	121	52.6	73	57.1
	普(普)	男	617	53.9	465	55.0
	普(普)	女	608	55.6	488	56.0
	普(特進)	男	144	60.8	111	61.6
明治学院東村山	普(特進)	女	133	61.1	113	60.9
	普	男	133	55.3	137	56.7
明 法	普	女	200	57.5	178	58.6
	普(総進)	男	56	53.5	49	53.7
桜 華 女 学 院	普(特別選抜)	男	17	53.9	12	58.7
	普(普)	女	75	41.8	75	42.0
自 由 学 園	普(体)	女	5	39.0	10	44.2
	普	男	19	44.9	21	43.3
文 華 女 子	普	女	24	44.3	20	48.1
	普(総進)	女	102	42.9	115	44.3
武蔵野女子学院	普(大学進学)	女	20	46.7	20	51.3
	普(普)	女	84	51.8	76	51.5
武蔵野女子学院	普(薬学・理系)	女	31	53.6	38	55.6

☆志望数は志望(第一志望とは限らず)件数、平均は志望者の平均偏差値を表す。
☆志望者数の少ない学校や改編された小学科、コース等は省きました。

08年度埼玉県私立高校入試を考える

1. 来春中学卒業予定者の進路希望

10月1日現在での来春中学卒業予定者の進学希望調査が11月2日に県から発表された。中学卒業予定者数は65,031名と昨年より約1千名減、希望校は全日制が59,183名、定時制597名、希望校未定2,707名で、全日制の内訳は次のとおりだった。

全日制	公立	国立（筑波大坂戸）	県内私立	県外私立	県外国立	県外公立
希望者数	48,215	223	7,119	3,102	234	290
対前年	-1,426	+3	+333	-184	-26	+18

公立高校の希望減・県内私立の希望増が目立つ。実際、「公立離れ・私立志向」と報じた新聞もあったが、埼玉県の発表は、公立中だけでなく国立の埼玉大附属や各私立中も含んだ結果となっているため、単純比較はできない。そこで進学先希望率の推移を学校基本調査の在籍生徒数とともにまとめたのが次の表である。

種別	年度	2004年	2005年	2006年	2007年
生徒数	公立中3	62,951	61,634	63,098	61,591
	国立（埼玉大附属）中3	176	176	168	175
	私立中3	1,848	2,181	2,491	2,894
希望先	公立+筑波大坂戸進学希望	49,524	48,375	49,861	48,438
	県内私立進学希望	(6,386)	(6,519)	(6,786)	(7,119)
	公立生の推定県内私立進学希望	4,538	4,338	4,295	4,225
	県外私国立進学希望	3,574	3,341	3,546	3,336
進学率	公立+筑波大坂戸進学希望	78.5%	78.3%	78.8%	78.4%
	公立生の推定県内私立進学希望	7.2%	7.0%	6.8%	6.8%
	県外私国立進学希望	5.7%	5.4%	5.6%	5.4%

生徒数は5月1日現在、公立進学希望は筑波大坂戸と合計した。「公立生の推定県内私立進学希望」は、その上段（ ）の県内私立希望から、多くが内部進学と考えられる私立中3の生徒数を差し引いた。また、県外私立希望は県外国立と合計した。希望率は、各進学希望者数を、公立中・埼玉大附属の生徒数合計で割ったものである。

私立中3を含めた県発表の県内私立希望はこの間毎年133～333名増加しているが、私立中3の生徒数が毎年310～403名増加しているため、公立生の推定県内私立進学希望はじわじわ減少している。このため、進学希望率で見ると県内私立は下降傾向から昨年・今年と横ばいになっている。一方、筑波大坂戸を合計した公立の進学希望率も、上下しているものの昨年から今年にかけては下降し、県外（多くは東京）私国立進学希望もやや下がっている。つまり埼玉大附属を含めた公立中3にとって、県内・県外とも私立高校の人気は上がっていない。むしろ微減続きなのである。公立の希望率も下がっているが、これは昼間部定時制の戸田翔陽（Ⅰ・Ⅱ部）と来春

新設の狭山緑陽（I部）に合わせて300名を超える希望者がいることから、そちらに流れたのだろう。

2. 各校ごとの希望者数昨年対比

順位	学校名	本年希望者数	昨年希望者数	増加数	併設中3年生の状況
1	淑徳与野	162	83	79	新規中3生76名
2	早大本庄	367	302	65	併設中なし
3	大宮開成	171	108	63	新規中3生109名
4	浦和実業	152	111	41	新規中3生72名
5	西武文理	355	320	35	中3生40名増
6	城北埼玉	158	127	31	中3生27名増
7	城西大川越	177	150	27	中3生37名増
8	東京成徳大深谷	124	99	25	併設中なし
9	武蔵越生	133	109	24	併設中なし
9	山村国際	77	53	24	併設中なし
11	山村学園	114	91	23	併設中なし
12	春日部共栄	221	199	22	中3生27名増
13	埼玉栄	375	357	18	中3生37名増
14	正智深谷	113	98	15	併設中なし
14	東野	21	6	15	併設中なし
16	開智	288	274	14	中3生16名増
17	星野	328	318	10	中3生16名増

各校の希望者数を昨年と対比した。県内私立47校中17校が昨年より10名以上希望者を増やしているが、表では内部進学1期生が出る淑徳与野・大宮開成・浦和実業だけでなく、併設中を持つ全校が内部の中3生の数を増やしており（資料は市進出版の受験ガイドより引用）、単純計算でその分を差し引くと、昨年より希望者が減っている学校が大多数だ。併設中のない各校では早大本庄の希望者増が大きく、男子25名・女子40名の増加となっている。同校は今春共学化して女子に高い人気になったが、同校によると県内からの受験生は思ったよりも少なかったようで、東京勢にかなり占められたようだ。共学2年目にあたり、県内女子受験生にも浸透が進んでいるのだろう。共学化を歓迎した男子の希望者も増加しており、このあたりは法政大学や明大明治などの希望者の状況と一致する。

山村学園は来年山村女子が共学化するが、114名の希望者中男子15名・女子99名でやはり女子の希望者が増えている。共学化を歓迎するのは女子も同じだ。

3. 県内私立各校の主な入試変更点

コース改編を中心とした各校の主な変更点は次のとおり。

- ・秋草学園 福祉進学コース募集停止
- ・浦和実業 英語コース募集停止
- ・大宮開成 家政科募集停止
- ・国際学院 総合スポーツコースを総合進学Ⅱ類に統合

- ・埼玉平成 一般進学 a コース→文理進学 a コース、一般進学 β コース→文理進学 β コースにそれぞれ改称
- ・栄東 東大・医学部クラス新設、 a コース内から選考
- ・淑徳与野 II類インターナショナルコース・III類SAコース募集停止、代わって既存類型内で特別入学制度を設置、インターナショナル特別枠は選抜CまたはII類、SAスポーツアート特別枠はII類に含む
- ・正智深谷 I類アスリートコース新設
- ・昌平 選抜アスリートコース新設
- ・東京成徳大深谷 福祉進学コース募集停止、特進コース内に特進EA（英語重視）・特進MA（理数重視）クラス設置
- ・東野 大学進学コース→大学進学 β コースに改称、大学進学 a コース新設
- ・細田学園 進学IIコース→総合コース、進学Iコース→進学コースにそれぞれ改称、文理コース新設
- ・本庄第一 普通・進学コース→進学 a ・進学 β コースに再編成、留学芸術選択・商経・体育コースは進学 a ・進学 β コース内での受け入れに変更
- ・本庄東 プログレッシブ進学・ジェネラル進学コース→進学コースに統合
- ・山村女子 共学化して校名を「山村学園」に変更、設定コースは変更なし

このほか、各コースの定員変更や日程の変更などが多くの学校で行われる。例年通り進学志向を強めたコースの改編が活発で、比較的入りやすいレベルのコースを、募集停止や定員削減、1ランク上のコースとの統合などで整理し、上位向けのコースを新設したり定員増とするなどの改編が多くなっている。また、専門性の強いコースを別枠ではなく通常のコース内に移行する例も見られ、「難関大学からスポーツ・芸術まで幅広いコース設定」といった学校像から「難関・上位大学進学が基本」の学校像への転換を図る例が増えている。スポーツ系も一定以上の学力水準を保ち、「運動も勉強も」ということだろう。

この、「運動も勉強も」は上位スポーツ系コースを新設する正智深谷や昌平にも共通する考え方で、以前から少しずつ広がっていたが、昨年夏に甲子園を沸かせた「ハンカチ王子」以来、動きが加速しているようだ。同じく福祉系コースの募集停止（秋草学園・東京成徳大深谷）も、県内だけでなく各地に共通する動きだ。福祉の現場が非常に厳しい労働環境にあることが広まってきたことなどで、中学生の福祉離れが起きており、またホームヘルパー資格取得のための実習・授業時間数が増加するため、本来の高校の学習と両立しにくくなることも福祉系コース廃止の理由だ。

私立中の受け入れ枠が拡大すると、高校で私立を選ぶ生徒が中学段階で入学してしまうため、高校受験での私立選択は低下傾向にある。「私立に入るなら中学から、公立中に進むなら公立高へ」といった二極化だ。しかし、これでは様々な事情で中学受験をしなかった生徒の選択肢を狭めることになる。「公立中生は公立高へ」の風潮を拡大させないためにも、各私学は魅力的な合格実績・コース設定や、特色のある教育活動を展開し、今後とも公立中生にアピールを続けていただきたい。

文／池田 亨（株）エデュケーションネットワーク・データ課長

09年度国公立大入試主な変更点

一橋大後期縮小・大阪大医学部理科を2科目に戻す・
千葉県立保健医療大新設など

●後期廃止は難関大・医学部が中心

この号では現高2生が受験する09年度入試の主な変更点をまとめてみた。私立大は未発表の大学が多いので、国公立大を中心とした。このデータは各大学のホームページを当たって作成したが、わかりにくい点や明らかな記述の誤りもあり、あくまで過渡的な情報であることにご留意いただきたい。

09年度入試の全体的な流れを見ると、やはり難関大・医学部（医学科）を中心に後期日程縮小の傾向は続いている。ただし、これまでも何度か言ってきたことだが、この傾向をもって一気に後期日程がなくなり、分離分割システムが崩れていくと判断するのは早計だろう。難関大や医学部（医学科）などのメジャーな情報は大きくアナウンスされるため影響力も大きいですが、きちんと調べると全体的には後期廃止の動きは少ない。特に地方国立大は教育学部の定員が少ない専攻などを除けば、むしろ後期維持の方向に向かっている。難関大や医学部（医学科）を受ける生徒は全体から見れば少数であり、それ以外の多くの生徒に接するときは、地に足のついた現実的な情報が、ますます重要になると思う。

●大阪大医学部は理科を3科目から2科目に戻す

では、主な大学別に見ていくことにしよう。

東大・京大・名古屋大・東北大など旧帝大系を中心にした、後期縮小・廃止の流れは、09年度で一橋大に受け継がれた。表①にあるように、法学部は募集人員が前期140→160名（08年度→09年度、以下同じ）・後期30→10名、商学部は前期220→260名・後期50→0名（後期廃止、推薦導入15名）、社会学部は前期185→225名・後期50→10名という変更で、全学的に前期シフトは明らかである。経済学部は募集人員に変更はないが、後期で論文がなくなり、他の学部も後期は科目を減らす方向で変更している。

東北大は文学部が後期を廃止してAO入試を導入する。この結果、東北大で後期が残っているのは経済学部と理学部だけとなる。

京大は文系学部の数学で数学Cが除かれる。新課程入試以降、京大文系の数C出題は高校にとって悩みの種だったが、これですっきりした形になるだろう。注目すべきは、経済学部で長く続いた論文入試の募集人員が半分になり（50→25名）になり、残り半分で理系入試が導入されることだ。経済学部の論文入試は一時期、追跡調査の報告冊子まで作って、論文入学生の優秀さをアピールしていたが、半分にしたということは志願者の質が低下したからだろうか。経済学部「理系」入試という呼称で、新しい試験が行われるのも前代未聞と言っていい。また、工学部全学科で前期個別試験に国語が必須になる（4教科入試になる）のもいまだ珍しいことである。

●表① 変更点のある難関国立大

大学	学部	学科	変更内容
東北大	文		・後期を廃止してAO入試を導入する。
一橋大	経済	経済	・後期で論文廃止。
	法	法律	・募集人員の変更：前期140→160, 後期30→10 ・後期個別試験で外国語が面接になる。論文は英語の論文になる。
	商	商	・募集人員の変更：前期220→260 ・後期廃止(50→0), AO廃止(専門高校枠5→0), 推薦導入15(うち5が専門高校枠, センターを課す)。
	社会	社会	・募集人員の変更：前期185→225, 後期50→10 ・後期個別試験で外国語と数学がなくなり、面接になる。論文は英語の論文になる。
京大	文系		・個別試験で数学の範囲から数Cを除く。
	経済		・理系入試を導入。募集人員は、現行の論文入試の50名を論文入試25名、理系入試25名とする。 ・論文入試は前期個別試験で数学を廃止し、国語、外国語を課す。理系入試は国語、数学、外国語を課す。
	工	全学科	・前期個別試験で国語が加わる。
九州大	教育		・後期を廃止してAOを導入(10名)
	農		・AOⅡの2次試験に小論文を課す。
	医	保健	・後期廃止する。 ・募集人員の変更：看護＝前期51→59・AO7→9, 放射線＝前期24→27・AO5→6、検査＝前期24→27・AO5→6

九州大は教育学部と医学部(保健)が後期を廃止するが、AO入試を実施するので、形の上では複数の受験機会は維持される。

医学部(医学科)の動きを見てみよう(表②参照)。大阪大医学部(医学科)がセンターの理科3科目を2科目に戻す。理科3科目導入が06年だから、わずか3年で戻したことになる。これは、09年度入試で最も衝撃的な変更点と言ってもいいだろう。今や医学部(医学科)がセンターで理科3科目を課すのは主流になっており、大阪大医はその先駆けだった。09年度でも、岡山大医と徳島大医がセンターで理科3科目を課す。大阪大医が何故、この時期に戻したのか、今後取材する必要があるだろう。少なくともこれによって、現在理科3科目を実施している周辺の医学部—大阪市大医学部・京都府医大・奈良県医大などへの影響は必至だろう。

地方では旭川医大の募集人員が前期20→35名・後期40→10名となり、後期が縮小される。しかし一方で、現行のAO入試20名がAO北海道地域枠35名に再編成され、地方国立大医学部(医学科)の地域枠拡大が、ここにもはっきり表れている。この傾向は加速的に進行しており、一般入試の枠がますます狭くなって、首都圏から地方国立大医学部を目指す受験生はよほど学力が高くないと合格出来ないだろう。

●表② 変更点のある医学部(医学科)

大学	学部	学科	変更内容
旭川医大	医	医	・募集人員の変更：前期20→35名・後期40→10名, AO入試(20人)を廃止してAO北海道地域枠を導入(35名)。 ・上記のAO入試はセンター5教科8科目を課す(理科が物I・化I・生Iの3科目を課す)。
金沢大	医薬保健学域	医学類	・募集人員の変更：前期80→80, 後期廃止, 推薦導入15(センター課す)
大阪大	医	医	・センターで理科が「物・化・生必須」から「物・化・生→2」となる(理科が3科目から2科目へ減, 前・後期とも)。
岡山大	医	医	・センターで理科3科目指定になる(前・後期とも)。
徳島大	医	医	・センターで理科3科目指定になる(推薦・前期・後期)。
長崎大	医	医	・後期を廃止する。

なお、09年度に後期を廃止する医学部(医学科)は金沢大と長崎大。08年から学内を大幅改組した金沢大の医薬保健学域(医学類)は、前期の募集人員数そのまま後期を廃止し、その代替として、推薦入試を導入する(15名・センターを課す)。医学部(医学科)の後期廃止は07年が5大学(弘前大・滋賀医大・新潟大・京大・島根大)、08年が6大学(東大理Ⅲ・名古屋大・神戸大・徳島大・高知大・京都府医大)と比較的多かったが、09年は今のところ、金沢大と長崎大の2校で一段落した感もある。

●新設大学は千葉県立保健医療大(仮称)など3公立大学

生徒減によって志願者が少なくなっていくため、入試科目を減らして受験生を集めようとする傾向は当然出てくるが、科目を増やす大学も意外にある。

科目負担減で目についたのは、高知大人文学部の人間文化学科で、現行では、センターが数・理・地歴・公民すべて必須だが、09年から「数・理・地歴・公民から1科目選択」となり、一気に3教科減になる(前期・後期とも)。東京芸大芸術学科の後期センターも、「外・数・国・地歴・理から3科目選択」となり、5教科5科目から3教科3科目になるが、東京芸大の場合は、大学の性格から考えてこの変更もある程度うなずけよう。高知大の負担減は、そこまで落とさざるをえない大学・学部の深刻さをうかがわせる。

再編・統合による新設大学としては、公立の千葉県立保健医療大(仮称)、新潟県立大(仮称)、愛知県立大が挙げられる(表③)。千葉県立保健医療大(仮称)は千葉県立衛生短大と千葉医療技術大学校の統合によるもの、新潟県立大(仮称)は県立新潟女子短大が大学に改編・昇格したもの、そして愛知県立大は既存の愛知県立大に愛知県立看護大が吸収されるもので、いずれの大学も入試に関する詳細は未定だが、学部・学科の構成は発表されている。

●表③ 新設大学

大 学	学部	学科	新 大 学 の 内 容
千葉県立保健医療大(仮称)			・千葉県立衛生短大と千葉医療技術大学校が統合して、新設大学になる。募集人員は以下の予定。 ・健康科学部(看護80・栄養25・歯科衛生25・リハビリテーション40<理学療法20・作業療法20>)。
新潟県立大(仮称)			・県立新潟女子短大が大学に改編・新設される。募集人員は以下の予定。 ・国際政策学部(国際政策120) 人間生活学部(人間科学40・幼児教育40・食品栄養40)
愛知県立大			・愛知県立大と愛知県立看護大が統合して愛知県立大になる。新大学の学部・学科構成は以下の通り。 ・日本文化学部(国語国文・歴史文化), 外国語学部(英米, ヨーロッパ, 中国・東アジア, 国際関係) ・教育福祉学部(教育発達科・福祉科), 看護学部(看護), 情報科学部(情報科) ・入試科目や配点は発表されているが、募集人員は未発表。

このほかの首都圏の国公立大、および判明した範囲での主要私大の変更点は表④・⑤にまとめたので参照していただきたい。

最後に千葉大工学部が09年度から6つの学類に再編されるが、現在判明しているところで紹介しておけば、次のように分類される予定である。

- * 第1学類=建築学科・都市環境システム学科
- * 第2学類=デザイン学科
- * 第3学類=機械工学科・メディカルシステム工学科
- * 第4学類=電気電子工学科・ナノサイエンス学科
- * 第5学類=共生応用化学科
- * 第6学類=画像科学科・情報画像学科

●表④ 変更点のある首都圏の国公立大

大 学	学 部	学 科	変 更 点
筑波大	社会・国際	国際総合	・AC入試を廃止する。
	医学	看護	・前期個別試験で理科がなくなる。
千葉大	工学類 へ変更	都市環境システム	・センターの理科が「物理必須、＜理総B・化・生→1＞の計2科目」となる（前・後期とも）。
		建築	・前期で実技が化学に変わり、「物IⅡ・化IⅡ→1」となる。 ・後期で適性検査が総合テストになる。
		機械工	・センターの理科が「物・化必修」から「物必修、＜化・生→1＞の計2科目」となる（前・後期とも）。
		メディカルシステム	・後期個別試験で小論文が総合テストになる。
		ナノサイエンス	・後期個別試験で総合テストが面接になる。
東京学芸大	教 育	初等—国語	・後期個別試験で国語が面接になる。
		初等・中等—社会 人間—生涯・総合 国際—日本語教育 —日本研究 —アジア研究 —欧米研究	・後期個別試験で小論文が面接になる。
東京海洋大	海洋工	全 学 科	・前期個別試験の物理の出題範囲に『「物質と原子」のうち「原子、分子の運動」』が加わる。
		海洋生物資源	・前期個別試験の配点が500→300点になる（数学・理科各150点）。
		流通情報工	・募集人員の変更：前期24→26，後期10→13，推薦4→2，AO入試A5→3，AO入試B2→1 ・前期センターで理科の選択科目に生物が加わり、後期センターで選択科目に国語と生物が加わる。
東京芸術大	美 術	工 芸	・センター後期で公民の選択が可能になる。
		芸 術	・センターの科目が「外・数・国・地歴・理→3」となり、5教科5科目から3教科3科目になる
横浜国立大	教育人間科	マルチメディア	・募集人員の変更：前期70→45，後期20→45
	工	物質工—化学・物質	・前期個別試験で総合問題が学科試験（数・物・化）になる。 ・AO1でセンター3教科5科目を課す。
		物質工—バイオ	・AO1でセンター3教科5科目を課す。
首都大学東京	都市教養	人 文・社 会	・前期センターで数Ⅰのみの選択が出来なくなる。
	システムデザイン	インダストリアルアート	・前期センターの数学で数ⅡBが必須になり、数学2科目となる。 ・前期個別試験で面接がなくなり、「英語・数ⅠA数ⅡB数ⅢC・実技」が必須となる。 ・後期センターの数学で数ⅡBが必須になり、数学2科目となる。理科（物・化・生→1）加わる。

●表⑤ 変更点のある首都圏主要私立大

大 学	学 部	学 科	新 大 学 の 内 容
学習院大	理学部		・生命科学科を増設する。
慶 大	経 済		・一般B方式で「外国語と地歴の一部の得点が一定の点数に達した受験生について外国語・地歴の残り」と小論文を採点が「外国語の一部の得点が一定の点数に達した受験生について外国語の残り」と地歴・小論文を採点に変更される。基準点の変更。
日 本 大	法	全 学 科	・法律学科以外は1～2年次大宮キャンパス履修だったが、全学科4年間三崎町キャンパスになる。
法 政 大			・スポーツ健康学部スポーツ健康学科を多摩キャンパスに新設する。
早 大	社会科学		・昼夜開講制が昼間制になる。1限が13時開講から9時開講になる。 ・センター利用を導入する（5教科5～6科目）。
	人間科学		・一般B方式で、化学の出題範囲が「生命と物質を除く」から「含む」に変更。
	創造理工	経営システム工	・理科が「物理3題と化学3題」のみになる。化学が必須になり、生物の選択が不可になる。

文／大堀精一（学研「進学情報」編集長）